

NEWS RELEASE

2021年1月17日
カルチュア・エンタテインメント株式会社
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

**TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM 2017 準グランプリ受賞作品
南沙良主演 映画『この子は邪悪』2022年公開決定！**
～なにわ男子・大西流星、桜井ユキ、玉木宏など豪華キャスト～

カルチュア・エンタテインメント株式会社（以下、CE）と、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 蔦屋書店カンパニー（以下、TSUTAYA）が主催する、映画『嘘を愛する女』『哀愁しんでれら』『先生、私の隣に座っていただけませんか？』など、多くの良質な作品を世に生み出してきた映像クリエイター支援プログラム「TSUTAYA CREATORS' PROGRAM（以下、TCP）」の、2017年準グランプリ Green Funding 賞受賞企画『ザ・ドールハウス・ファミリー』が、『この子は邪悪』という作品名として、主人公に南沙良を迎え、2022年、劇場公開されることが決定いたしました。

『この子は邪悪』公式 WEB サイト：
<https://happinet-phantom.com/konokohajyaaku/>
公式 Twitter：@konokohajyaaku #この子は邪悪



『この子は邪悪』の原案となった『ザ・ドールハウス・ファミリー』は2017年に開催された第3回 TCPにおいて総応募数 268 作品の中から準グランプリ Green Funding 賞を受賞した企画です。本作の監督・脚本を務める片岡翔は、本作が長編3作目で、これまでに脚本家として『町田君の世界』や『ノイズ』、ドラマ『ネメシス』などに携わっています。また、2017年には小説『さよなら、ムッシュ』を発表し、3冊の小説を執筆しています。

本作の主人公・窪花を演じるのは、初主演を務めた『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』でブルーリボン賞をはじめ数々の新人賞を受賞し、現在は大河ドラマ『鎌倉殿の13人』にも出演中の南沙良。昨年話題となったドラマ『ドラゴン桜 第2シリーズ』でもひとときわ注目を集めた実力派若手女優で、本作がその出演以降初の主演映画となります。

本件に関するお問い合わせ先：

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 蔦屋書店カンパニー 広報
TEL：03-6800-4764 MAIL：tsutaya_pr@ccc.co.jp

本作の主人公・花は、かつて一家で交通事故に遭い自分だけが無傷であったことに罪の意識を持ち、学校にも行かず心を閉ざしています。『ドラゴン桜』で南が演じた、明るく天真爛漫な役柄とは打って変わり、暗い過去を持つシリアスな演技に挑戦しています。

共演には、昨年 CD デビューを果たし、俳優としても活躍の場を広げ、ドラマ「鹿楓堂よついろ日和」に出演中の大西流星（なにわ男子）。尚、大西単独では初の映画出演となります。また、映画『コンフィデンスマン JP -ロマンス編-』等に出演し、現在 OA 中のドラマ「真犯人フラグ」での怪演も話題の桜井ユキ、『映画 極主夫道』やドラマ「桜の塔」、大河ドラマ「青天を衝け」など幅広い役柄を演じている玉木宏が顔を揃えました。

■『この子は邪悪』作品情報

- 監督・脚本：片岡翔
- 出演：南沙良 / 大西流星（なにわ男子） 桜井ユキ 渡辺さくら 桜木梨奈 稲川実代子 ニノ宮隆太郎 / 玉木宏
- 製作：「この子は邪悪」製作委員会(カルチュア・エンタテインメント、ハピネットファントム・スタジオ、C&I エンタテインメント、TC エンタテインメント)
- 製作幹事：カルチュア・エンタテインメント
- 制作プロダクション：C&I エンタテインメント、Lamp.
- 配給・宣伝：ハピネットファントム・スタジオ
- TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM 2017 準グランプリ作品企画 Green Funding 賞
- © 2022「この子は邪悪」製作委員会
- 2022 年/カラー/シネマスコープ/5.1ch/100 分 映倫区分：PG12
- 公式サイト：<https://happinet-phantom.com/konokohajyaaku/>
- Twitter：@konokohajyaaku #この子は邪悪

□ストーリー

心理療法室院長・窪司朗の娘である花はかつて一家で交通事故に遭い、司朗は足に後遺症が残り、母は植物状態に、妹は顔に重度の火傷を負った。その事故で心に深い傷を抱えていた花のもとに、母の心神喪失の原因を探る高校生・四井純が訪れる。花は純と次第に心を通わせていくが、ある日突然、司朗が 5 年間の植物状態から目を覚ました母を連れて家に帰ってくる。司朗は「奇跡が起きた」と久しぶりの家族団らんを喜ぶが、花は違和感を覚える。「この人、お母さんじゃないー」。

■本作は 2022 年に公開予定です。

キャスト、監督のコメントをご紹介します。

□南沙良（主演：窪花役）コメント

過去に辛い経験があり暗いものを抱えている難しい役でしたが、とてもあたたかい現場でリラックスしてお芝居をすることが出来ました。

初めて共演させていただいた大西さんは、お芝居の合間に台本を確認していたりととても真面目な印象が残っています。

本件に関するお問い合わせ先：

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 蔦屋書店カンパニー 広報
TEL：03-6800-4764 MAIL：tsutaya_pr@ccc.co.jp

今回、初めて挑戦させていただくテイストの作品だったので少し緊張していましたが、監督とお話を重ねながら丁寧にお芝居をさせていただきました。

お芝居をしているなかで、この物語の不思議な世界観に、私自身引き込まれる瞬間が何度かありました。家族の形というものが複雑化していく中で、「愛」の形を考えることのできる作品だと思えますので、皆様是非ご覧ください。

□大西流星（なにわ男子）（四井純役）コメント

僕が演じた四井純くんは、名前の通りとても純粹で、母親の謎の病の原因を探るべく自分から行動できる子です。実際の僕自身より遥かに大人で逞しいなと思いました。普段感じることのない感情になり、演じるのは難しかったです。監督と話しながら純くんの人柄や作品の世界観を作り上げることができ、自分にとって勉強となる時間でした。

南さんは年下ながら、僕よりしっかりとされていて、自分を持っている俳優さんです。玉木さんは色々と気に掛けてくださり、撮影中はまだ CD デビューが決まっていなかったため、「デビューできるといいね」と仰ってくださったのも嬉しかったです。

『この子は邪悪』は不思議な世界観で引き込まれていく映画となっています。人間模様がリアルに描かれており、所々ヒヤッとさせるシーンもあります。様々なキャラクターの視点でご覧いただくと、より楽しめると思います。

□桜井ユキ（窪鞠子役）コメント

脚本の前半は隙のない完璧な母親というイメージだったのですが、後半にかけての変化に「完璧」を求めるからこそその脆さ、揺るがない思いに自分が演じる役ながらも恐怖を感じました。

現場の思い出は、真夏だった事もありとにかく暑かったです（笑）。ただ、そんな中の連日の撮影だったので夏の思い出みたいな現場でした。その中でも家族全員で集まるシーンはとても印象深く残っています。幸せなシーン、シリアスなシーン、両方とも。

「～だろう」をたくさん裏切られていく映画です。様々な愛の形を皆さまに観て頂きたいですし、最後まで見届けて頂けたらと思います。

□玉木宏（窪司朗役）コメント

台本を読み終わった時、静かで怖くて不思議な話だけど、共感出来る。そう思いました。私が演じたのは何の変哲もない、妻や子供、家族に対し愛情深い男です。この作品の中で起こることは、実際には起こり得ない事だと思いますが、もしかしたら、いつかどこかで起こり得るかもしれないと思わせる怖さがあります。

南さんは、凛とした佇まいで、静かな強さを感じる女性でした。撮影は酷暑で、皆朦朧としながら撮影していましたが、南さんは集中力が高く頼もしかったです。大西くんは、撮影時はまだ「なにわ男子」としてのデビュー前でしたが、真摯に撮影に臨む姿がキラキラしていて、心根の優しさもある華のある男性だと思いました。

人が当たり前前に抱いている家族を想う事、人を想う感情をグルッと回ってもう一度考えさせられる様な不思議な魅力のある映画だと思います。ご期待ください。

本件に関するお問い合わせ先：

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 蔦屋書店カンパニー 広報
TEL：03-6800-4764 MAIL：tsutaya_pr@ccc.co.jp

□片岡翔（監督・脚本）コメント

脚本に四年、三十回以上の改稿を重ねた本作。ちょっと異常とも言えるその脚本に、素晴らしいキャスト、スタッフが集ってくださり、感謝の気持ちで一杯です。皆様のおかげで、誰も観たことがないような、最高に面白い映画ができました。

主人公の花は物凄く繊細な感情表現が求められる役なのですが、南さんは僕が求めていることを少ない言葉で理解して、一発で的を射抜いてくる。その感覚の鋭さ、天才性に驚きました。

大西さんは撮影中の成長が凄まじく、クライマックスでは仕事を忘れて見入ってしまうほどの芝居を見せてくれました。今後、俳優としても大活躍されるだろうと確信しています。

普段あまり映画を観ない方にも、映画好きな方にも楽しんでもらえる作品を目指して作りました。先の読めない展開を練りに練り、想像できないエンディングを用意しています。観て損はさせません。是非劇場のスクリーンでご覧頂きたいです。

■参考インタビュー記事

【受賞者インタビュー】第3回『TSUTAYA CREATORS' PROGRAM』準グランプリ・片岡翔「映画から生まれる物語がもっともって増えていったら」

TCP2017 準グランプリ Green Funding 賞を受賞した片岡翔が最終審査会当日や本作への想いを語っています。ぜひご覧ください。

□<https://tsutaya.tsite.jp/news/movie/38445867/>

■TSUTAYA CREATORS' PROGRAM とは？

TCP とは、プロ・アマ問わず映像化可能な企画を募り、映像を創り出すクリエイターを発掘し、製作からレンタル・販売・配信までを総合的に支援するプログラムです。「名作のタネ」を業界各社と協力しながらサポートしていくことで、新しい才能が輩出される環境や、新たなクリエイターとの出会いを創出し、映画市場の活性化に寄与してまいります。受賞作には5,000万円～の総製作費を準備して、資金や制作体制をバックアップし、完成した作品は全国のTSUTAYA店舗やTSUTAYA DISCAS、TSUTAYA TVなどでオリジナル作品としてレンタル・販売展開をいたします。次回の企画募集は2022年春を予定しております。



□公式サイト：<https://culture-pub.jp/tcp/>

本件に関するお問い合わせ先：

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 蔦屋書店カンパニー 広報
TEL：03-6800-4764 MAIL：tsutaya_pr@ccc.co.jp